

戸籍の窓

10月1日～11月末届出分
(ゴシック文字は地区在住)

●すこやかに

矢坪 真心(まごちゃん)(宇受賀、友紀さん)
 新谷 敬(けい)くん(北分、隆浩さん)
 大野 晃輔(こうすけ)くん(東、誠さん)
 錢谷 湊(みなと)くん(宇受賀、和樹さん)
 志賀 颯太(そうた)くん(西、健二さん)
 錢谷 紗和(さわ)ちゃん(北分、聡さん)

●えんむすび

中川 拓也さん(東) 政木 輝一さん(東、86)
 熊木 治子さん 黒田 ヤエ子さん(中里、96)
 大野 浩彰さん(宇受賀) 村井 ノブ子さん(東、77)
 松岡 育美さん

●やすらかに

黒田 将生さん 村井 眞さん(東、68)
 澤谷 友子さん(日須賀) 大森 重伸さん(西、84)
 下田 道之さん(中里) 矢谷 朗さん(崎、80)
 郷原 千絵さん 荒木 一男さん(多井、94)
 錢谷 和樹さん(宇受賀) 波多 總一さん(東、103)
 川越めぐみさん 下田 ハギ子さん(中里、93)
 大井 善之さん 前田 憲一さん(崎、80)
 大江 陽子さん(御波) 荒木 丸谷 一郎さん(崎、71)
 松前 元さん(御波) 下田 藤井 敏江さん(知々井、79)
 立花 静香さん

※年齢は満年齢です

御礼申し上げます

(海士町社会福祉協議会)

◆香典返し

政木 愛子様(東)
 矢谷 光史様(崎)
 濱 春夫様(北分)
 大森 民子様(西)
 黒田 敦様(中里)
 村井 宏様(菱浦)

◆一般寄附

下谷 貴美子様(奈良市)
 中畑 房子様(西)

◆特別養護老人ホーム諏訪苑

◆香典返し
 荒木 茂様(多井)

◆一般寄附

永井 勝正様(東)

◆広報郵送料

(12月21日まで)
 黒田 文明様(川西市)
 中尾 和正様(草津市)
 松尾 万人様(高座郡)
 脇谷 輝美様(安来市)

◆お詫びと訂正

広報海士11月号P.22、広報郵送料への御礼のコーナーで掲載内容の一部に誤りがございました。深くお詫び申し上げますとともに、左記の通り訂正いたします。

(誤)竹村 精紀様
 (正)竹村 清紀様

増谷実香さん(19歳、菱浦)



神楽に“覚醒” 泣けるほど好き

キラリ★海士人

お正月拡大版

隠 岐島前神楽の奥深い世界にどっぷり浸かって約7年。増谷さんは昨年、地元の祭り以外にも10月に秋田、11月に東京と立て続けに大舞台を踏みました。島前神楽保存会の東京公演には文化庁調査官や研究者らも多数来場し、特に注目されたのは、「注連行事」です。注連行事とは、巫女が神様をお呼びして迎え、神懸かりとなってお告げを受け取る(※現代では形式のみ)という神秘的な演目で、30年以上も前の記録映像をたよりに、保存会が3年以上かけて復活させたもの。注連行事でも巫女を演じた増谷さんは、数多くの神社の名前や長いセリフを完璧に覚え、高く澄んだ声を大会場に響き渡らせました。

巫女ひとすじかと思いきや、中学1年で菱浦神楽同好会に入った頃には興味があったのは手拍子だけで、巫女舞は嫌いだったとか。そんな彼女が“覚醒”したのは、同じ年の冬。松江公演で巫女舞を初披露するはずが、直前になって出演見送りを告げられ…、悔しくて悔しくて大号泣。「自分は手拍子じゃなくて神楽そのものが大好きなんだって、この時に自覚した。私と神楽の関係が明らかに変わりました」。スイッチが入ってからはすっかり神楽の虜となり、高校卒業後もこの島で神楽を続けたい一心で、町内での就職を決めました。

ただ、神楽は楽しいだけにあらず。「私にとっては神様」と慕う師匠の石塚芳秀さんすら『正解』を知るわけではなく、過去の記録を研究し、地道に近づいてゆく大変な作業です。目標は、まだ誰も再現できていない女性の舞いを体得すること。さらに、「先祓いとか、男性の舞いも覚えたい！」という野望も胸に温めています。

伝統を守る義務感ではなく、「やりたいからやる！」という想いのままに伸び伸びと、神楽探究の道をゆく増谷さん。「神楽のためなら何でもする、ってくらい好きなんです」と言い切る笑顔が素敵でした。(聞き手:小坂)